

# 名古屋女子大学短期大学部学生の健康調査について

小 沢 教 子・山 崎 旭 男\*

## A Health Investigation on the Students of Nagoya Women's Junior College

N. OZAWA and A. YAMAZAKI

### 緒 言

健康調査は身長、体重、50m走、握力などを計測し、身体的機能状態を調べる方法と、苦痛、緊張、不安などの精神心理状態を調べる方法とがある。後者の精神心理状態の健康調査法<sup>3,4)</sup>として Cornell Medical Index (以下 C. M. I. と略す) が広く利用され、学校、工場などの保健活動に有用な価値が認められてきた。C. M. I. はアメリカの Brodman 等<sup>2)</sup>により考案され、日本では九州大学の深町等<sup>1)</sup>により昭和32年頃から研究され、近年は数多くの人々の情緒障害判別に活用され、保健活動などに広く応用されている。

本研究は大学における集団活動の管理上、一つの側面的資料を得ることを目的とし、C. M. I. を採用し、名古屋女子大学短期大学部学生の精神的、心理的状态を調査し、合わせて他大学の学生及び韓国女子学生と比較したものである。これらの調査結果には非常に興味ある保健管理上の問題が含まれているのでここに報告する。

### 調 査 方 法

C. M. I. の調査には多くの簡易化されたアンケート調査が発表されているが、本調査では、Brodman の原型<sup>4)</sup>を用いた。質問事項は表1—1, 2, 3, 4に示すごとく、A(目、耳)、B(呼吸器管)、C(心臓脈管系)、D(消化器系)、E(筋肉骨格系)、F(皮膚)、G(神経系)、H(泌尿性生殖器系)、I(疲労度)、J(疾患に関する関心)、K(種々の疾患)、L(生活様式)、M(不適)、N(憂うつ)、O(不安)、P(過敏)、Q(怒り)、R(緊張)の18項目から成り、A~Lの身体的質問とM~Rの精神的質問に2分される。1項目は更に6~23の事項に細分され、総計で195におよぶ質問数となっている。

本調査の主対象とした名古屋女子大短大部1年生は昭和58年4月に調査を行なった。同時に比較対象とした椋山女学園大学1年生、聖徳学園女子短期大学1年生のI部、II部、III部、名古屋工業大学(昼間部)の4校(以下椋山女子大、聖徳短大、名工大と略す)については昭和57年4月~5月に調査したものである。国外では昭和57年4月韓国ソウル市国立京畿工業専門大学1年の女子学生(昼間部)83名について行なったものを対象とした。尚、韓国での調査は表1に示したものを金榮烈氏(京畿工業専門大学教授)が翻訳したものをを用いて調査を行なった。調査、集計はマークシート方式により各自に記入させ、回収後岐阜工業高等専門学校(以下岐阜工専と略す)のコンピューターにより処理した。

\* 聖徳学園女子短期大学



D

41. 歯が半分以上も脱けてしまいましたか… ……ハイ イイエ
42. 歯くきから血が出ますか… ……ハイ イイエ
43. たびたびひどい歯痛で苦しみますか… ……ハイ イイエ
44. 舌の表面が白くなるのがよくありますか… ……ハイ イイエ
45. いつも食欲はよくありませんか… ……ハイ イイエ
46. 間食をするくせがありますか… ……ハイ イイエ
47. いつもいそいで食物をたへるくせがありますか… ……ハイ イイエ
48. 胃の具合が悪く困ることが度々ありますか… ……ハイ イイエ
49. 食後いつも胃かかはる感じになりますか… ……ハイ イイエ
50. 食後ゲップがよく出ますか… ……ハイ イイエ
51. 胃がときどき痛みますか… ……ハイ イイエ
52. こなれが悪くて困ることがありますか… ……ハイ イイエ
53. はげしい胃痛でかがみこむようなことがありますか… ……ハイ イイエ
54. いつも胃の調子が悪いほうですか… ……ハイ イイエ
55. ご家族に胃の悪い方がいますか… ……ハイ イイエ
56. 胃潰瘍だと医師からいわれたことがありますか… ……ハイ イイエ
57. 腸かゴロゴロ鳴ったりしばしば下痢をしますか… ……ハイ イイエ
58. 血がまじった下痢をしたことがありますか… ……ハイ イイエ
59. 腸の寄生虫病（蛔虫や十二指腸虫など）にかかったことがありますか… ……ハイ イイエ
60. 便秘でいつもなやみますか… ……ハイ イイエ
61. 痔になったことはありますか… ……ハイ イイエ
62. 黄疸（おうだん）に罹ったことがありますか… ……ハイ イイエ
63. 肝臓や胆嚢の病気をしたことがありますか… ……ハイ イイエ
- E
64. どこかの関節が時々はれて、痛むことがありますか… ……ハイ イイエ
65. どこかの関節や筋肉がこわばっているところがありますか… ……ハイ イイエ
66. 手や足にひとく痛むところがありますか… ……ハイ イイエ
67. 関節炎やリウマチで動かなくなったところがありますか… ……ハイ イイエ
68. ご家族に関節炎やリウマチの方がいますか… ……ハイ イイエ
69. 足か弱かったり痛かったりして生活に不自由の感することありますか… ……ハイ イイエ
70. 背中や腰が痛くて仕事がやりにくいことがありますか… ……ハイ イイエ
71. 生まれつきか、または怪我等のた

めに体のどこかに動きにくい所がありますか… ……ハイ イイエ

F

72. 皮膚が過敏で弱いですか… ……ハイ イイエ
73. 怪我をしたとき創口か治りにくい方ですか… ……ハイ イイエ
74. 顔に血がのぼって赤くなりやすいですか… ……ハイ イイエ
75. 寒いときでも汗をかきやすいですか… ……ハイ イイエ
76. 時々皮膚がかゆくなって悩むことがありますか… ……ハイ イイエ
77. 時々皮膚に発疹（フキデモノ）が出来ますか… ……ハイ イイエ
78. おできがよくできますか… ……ハイ イイエ

G

79. 頭が時々痛んで困ることがありますか… ……ハイ イイエ
80. 頭が重くてつらいことがありますか… ……ハイ イイエ
81. ご家族に頭痛もちの方がいますか… ……ハイ イイエ
82. 発作的に体があつくなったり、冷えたりしますか… ……ハイ イイエ
83. 目まいの発作がおきることがありますか… ……ハイ イイエ
84. 気が遠くなることがたびたびありますか… ……ハイ イイエ
85. 今までに2回以上気が遠くなったことがありますか… ……ハイ イイエ
86. 体のどこかがシビレで感じがにぶい所とかチクチク痛む所がありますか… ……ハイ イイエ
87. 体のどこかにマヒして動かなくなったところがありますか… ……ハイ イイエ
88. 何かに打ち倒されて気を失ったこと（卒倒）がありますか… ……ハイ イイエ
89. 顔や頭や肩などに時々ビクビクけいれんを起こすことがありますか… ……ハイ イイエ
90. けいれんの発作（ひきつけやてんかんなど）をおこしたことがありますか… ……ハイ イイエ
91. ご家族にけいれん発作をおこした人がありますか… ……ハイ イイエ
92. 指の爪をかむくせがありますか… ……ハイ イイエ
93. どもったり、急にうまくしゃべれなかつたりしますか… ……ハイ イイエ
94. ねばけますか… ……ハイ イイエ
95. 寝小便をすることがありますか… ……ハイ イイエ
96. 8才から14才までの間に寝小便をしましたか… ……ハイ イイエ

H

97. 月経のとき痛みを感じますか… ……ハイ イイエ
98. 月経のときからの具合が悪く感じますか… ……ハイ イイエ

- 99. 月経のとき床について休むほど  
すか。ハイ イイエ
- 100. 月経のときはいつも気分がいら  
ちますか。ハイ イイエ
- 101. のぼせたり汗かかて困ることがあ  
りますか。ハイ イイエ
- 102. コンケになやむことがありますか。ハイ イイエ
- 103. 寝てから小用のため毎晩起きます  
か。ハイ イイエ
- 104. 日中の尿の回数は多いほうですか。ハイ イイエ
- 105. 小用をするとき痛みを感じたこと  
がありますか。ハイ イイエ
- 106. 尿をもらしたことがありますか。ハイ イイエ
- 107. 腎臓や膀胱の病気があると医師に  
いわれたことがありますか。ハイ イイエ

I

- 108. ときとき全く疲れきってしまうこ  
とがありますか。ハイ イイエ
- 109. 仕事をしてすっかり疲れることか  
ありますか。ハイ イイエ
- 110. 朝起きたときに疲れていると感じ  
ることがありますか。ハイ イイエ
- 111. 少し仕事に精を出すと疲れますか。ハイ イイエ
- 112. あまり疲れすぎて食欲がなくなる  
ことがありますか。ハイ イイエ
- 113. 精神的にひどく疲れることかあり  
ますか。ハイ イイエ
- 114. ご家族に精神的に疲れている人が  
ありますか。ハイ イイエ

J

- 115. よく病気に罹るほうですか。ハイ イイエ
- 116. 病気で床につかねばならないこと  
がよくありますか。ハイ イイエ
- 117. 体は弱いほうだと思いますか。ハイ イイエ
- 118. 他人から病弱の方だと考えられて  
いますか。ハイ イイエ
- 119. ご家族は一体に弱いほうですか。ハイ イイエ
- 120. 体の具合かときとき悪くなり仕事  
に差支えることがありますか。ハイ イイエ
- 121. 体がひどく疲れて健康か気になり  
ますか。ハイ イイエ
- 122. いつも気分がすぐれず不快ですか。ハイ イイエ
- 123. 体が弱いためみじめたと思いま  
すか。ハイ イイエ

K

- 124. ショウコウ熱に罹ったことかあり  
ますか。ハイ イイエ
- 125. 子供の時リウマチ熱に罹り、大人  
になって体のとこか痛みますか。ハイ イイエ
- 126. マラリアに罹ったことかありま  
すか。ハイ イイエ
- 127. 貧血のため治療を受けたことがあ  
りますか。ハイ イイエ
- 128. 梅毒の治療を受けたことがありま  
すか。ハイ イイエ

- 129. 糖尿病に罹ったことかあります  
か。ハイ イイエ
- 130. 甲状腺かはれて（ハセト一氏病）  
いると医師にいわれたことかあり  
ますか。ハイ イイエ
- 131. 腫瘍（うみの出ないはれもの）が  
できて医師の治療を受けたことが  
ありますか。ハイ イイエ
- 132. 何か慢性の病気に罹ったことかあ  
りますか。ハイ イイエ
- 133. やせすぎと感じていますか。ハイ イイエ
- 134. ふとりすぎと感じていますか。ハイ イイエ
- 135. 下腿の静脈がふくれて外から見  
えるようになっていませんか。ハイ イイエ
- 136. 外科の手術を受けたことかあり  
ますか。ハイ イイエ
- 137. 大怪我をしたことかあります  
か。ハイ イイエ
- 138. 度々小さな怪我をしますか。ハイ イイエ

L

- 139. ねつきが悪かったり夜中に目かき  
めやすいですか。ハイ イイエ
- 140. 毎日きまった時間に床につくこ  
とができますか。ハイ イイエ
- 141. 毎日きまった仕事やスポーツを規  
則的にしていませんか。ハイ イイエ
- 142. 1日に20本以上タバコをすいま  
すか。ハイ イイエ
- 143. 毎日お茶やコーヒーを多量にのむ  
ほうですか。ハイ イイエ
- 144. 毎日きまってお酒を呑みますか。ハイ イイエ

M

- 145. 試験とか質問を受けている時汗を  
かいたりふるえたりしますか。ハイ イイエ
- 146. 目上の人に会うと緊張したりふる  
えたりしますか。ハイ イイエ
- 147. 上役（目上の人）に見られてい  
ると仕事が行く行かなくて困りま  
すか。ハイ イイエ
- 148. 物事（仕事）を早くまとめようと  
すると考えかまともりませんか。ハイ イイエ
- 149. ゆっくりしないと間違いをおこし  
やすいですか。ハイ イイエ
- 150. さしずや命令をよく間違えること  
かありますか。ハイ イイエ
- 151. 見知らぬ人に会ったり見知らぬ場  
所に行くことは気にかかりますか。ハイ イイエ
- 152. 一人ぼっちになっていると何かお  
そろしい感じかしますか。ハイ イイエ
- 153. 決断はつきにくいですか。ハイ イイエ
- 154. あなたに助言してくれる人かいつ  
もほしうですか。ハイ イイエ
- 155. あまり気がきかないといわれてい  
ますか。ハイ イイエ
- 156. 自宅以外で食事をとること（寮や  
会社の食堂を除く）は好みません  
か。ハイ イイエ

N

157. 仲間と一緒にいても孤独（1人ぼ  
ちで淋しい）を感じることがあ  
りますか……………ハイ イイエ  
158. いつも不愉快で面白くなく気がふ  
さいでいますか……………ハイ イイエ  
159. 時々泣くことがありますか……………ハイ イイエ  
160. いつも憂うつですか……………ハイ イイエ  
161. 人生に希望がもてなくなったこと  
がありますか……………ハイ イイエ  
162. 死んでしまいたいと思うことがあ  
りますか……………ハイ イイエ

O

163. いつもくよくよしますか……………ハイ イイエ  
164. ご家族に苦労性の人がありますか……………ハイ イイエ  
165. ちょっとしたことでも心配になり  
気にかかりますか……………ハイ イイエ  
166. あなたは神経質なほうだと思います  
か……………ハイ イイエ  
167. ご家族に神経質な人がおりますか……………ハイ イイエ  
168. 神経衰弱のようになったことがあ  
りますか……………ハイ イイエ  
169. ご家族に神経衰弱になった人があ  
りますか……………ハイ イイエ  
170. 精神科または神経科の患者となっ  
たことがありますか……………ハイ イイエ  
171. あなたのご家族に精神科または神  
経科の患者となった人がありま  
すか……………ハイ イイエ

P

172. あなたは恥かしがりや（はにかみ  
や）の方ですか……………ハイ イイエ  
173. ご家族に恥かしがりや（はにかみ  
や）の方がおりますか……………ハイ イイエ  
174. すぐ感情を害するほうですか……………ハイ イイエ  
175. 他人の批評が気になりますか……………ハイ イイエ  
176. あなたは自分が気むずかしやだと

- 思いますか……………ハイ イイエ  
177. あなたは他人からよく誤解されま  
すか……………ハイ イイエ

Q

178. 友人に対しても気をゆるしません  
か……………ハイ イイエ  
179. ちょっとしたことで気がいらだち  
ますか……………ハイ イイエ  
180. いつも突然の衝動やはずみで物事  
をしますか……………ハイ イイエ  
181. いつも自制しないと失敗すること  
がありますか……………ハイ イイエ  
182. 一寸したことで怒りますか……………ハイ イイエ  
183. 他人から指図されることはきらい  
ですか……………ハイ イイエ  
184. 他人のことで腹を立てたりいらだ  
ったりしますか……………ハイ イイエ  
185. 思う通り出来ないと怒りたくなり  
ますか……………ハイ イイエ  
186. 時々激しく怒ることがありますか……………ハイ イイエ

R

187. 時々手や足がふるえますか……………ハイ イイエ  
188. たえずいらいらしていますか……………ハイ イイエ  
189. 突然な物音でびっくりして飛び上  
ることがありますか……………ハイ イイエ  
190. どなりつけられると、びっくりし  
てすくみますか……………ハイ イイエ  
191. 暗いところで物が動いたり音をき  
くとおびえますか……………ハイ イイエ  
192. 恐ろしい夢で時々目がさめますか……………ハイ イイエ  
193. いやなこわい思いがいつまでも頭  
の中に残ることがありますか……………ハイ イイエ  
194. 時々わけもなく急におびえること  
もありますか……………ハイ イイエ  
195. 時々冷汗をかきますか……………ハイ イイエ

上記の外に身体的、心理的の苦悩があれば下に記し  
て下さい。

## 結果および考察

### 1. 大学別愁訴数

表2より1人当りの愁訴数の合計の少ない順序をみると名工大、家政科、英語科（本学は科

表2 項目別・身体的・精神的愁訴数

大学	科・コース	項目 N	項目																	総計	
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q		R
名古屋女子大学短期大学部	家政科	食物コース	19	20	1.2	38	0.3	10	10	18	10	0.3	10	10	37	08	17	17	18	19	29.7
		(18.1) (11.6)																			
	生活文化コース	99	2.0	2.6	1.3	3.6	0.5	1.2	1.4	1.6	2.1	0.5	0.9	1.1	3.8	0.9	1.9	1.9	2.0	1.9	31.2
		(18.8) (12.4)																			
	家政科平均	197	1.9	2.3	1.2	3.7	0.4	1.3	1.5	1.7	1.9	0.4	0.9	1.0	3.7	0.8	1.8	1.8	1.9	1.9	30.1
		(18.2) (11.9)																			
英語科	92	2.2	2.1	1.4	3.3	0.3	1.6	1.9	1.8	1.8	0.5	0.9	1.1	3.6	1.1	1.5	1.7	1.9	1.8	30.5	
(18.9) (11.6)																					
平均	289	2.0	2.2	1.3	3.6	0.4	1.4	1.6	1.8	1.9	0.4	0.9	1.1	3.7	0.9	1.7	1.8	1.9	1.9	30.5	
(18.6) (11.9)																					
聖徳学園短期女子大学	I部	249	1.9	2.1	1.6	4.4	0.5	1.6	1.7	1.9	2.3	0.6	1.2	1.0	4.4	1.3	2.0	2.0	2.4	2.6	35.5
	(20.8) (14.7)																				
	II部	112	2.0	1.1	0.7	5.0	0.9	1.5	2.2	1.8	3.4	0.9	1.4	1.0	4.8	1.6	2.4	2.3	2.8	2.9	38.7
(21.9) (16.8)																					
III部	229	2.0	2.7	2.1	5.3	0.9	1.7	2.7	1.9	3.3	1.1	1.3	1.0	4.5	1.8	2.2	2.4	2.8	2.8	42.5	
(26.0) (16.5)																					
椋山女子大学	350	2.3	2.4	1.6	3.5	0.5	1.4	1.9	2.0	2.6	0.6	0.9	1.1	3.8	1.1	1.8	1.9	2.4	2.0	33.8	
(20.8) (13.0)																					
名古屋工業大学	9	1.8	1.2	0.4	1.3	0.1	0.2	1.0	1.2	0.8	0.1	0.6	0.7	0.7	0.5	0.8	1.1	1.0	0.5	14.0	
(9.4) (4.6)																					
韓国	83	2.5	3.7	3.2	4.6	0.8	1.6	3.4	2.9	2.4	1.3	1.4	1.0	4.9	1.5	1.5	1.6	3.0	3.7	45.0	
(28.8) (16.2)																					

別)、椋山女子大、聖徳短大I部、同II部、同III部、韓国の順となった。本学家政科のコース別では、生活文化コースに比して食物コースがやや低い値を示した。愁訴数の最も低かった名工大では、例数が少なく断定するには問題があるが、調査が4～5月という比較的早い時期に行なわれたため、この段階で悩みを訴えるものは少なく、むしろ、各々が自己の希望する大学、学科へ入学できたという選ばれた学生としてのプライドが持続しており、これらの喜びが愁訴数を少なくしたものと思われる。

本学短大部及び椋山女子大、聖徳短大I部の昼間部学生の愁訴数は30.5～35.5となり、入学後間もない新生には多くの悩みや不安などがあるものと思われ、これらがストレスとなって愁訴数の増大につながったものと推察される。この愁訴数も篠田等<sup>5)</sup>が行なった岐阜工専男子生徒の四季を通じての調査結果では春、夏、秋、冬と時を経るに従い環境に適合し、又、1年生より学年が進行するにつれて愁訴数が減少したと報告している。女子についても減少したとの報告<sup>9)</sup>があり、本学においても同様のことが推察されるが、今後更に追跡調査を行なう必要がある。加えて、これらの学生の多くの悩みを学生個人に持たせることなく、学内の学生相談室への訪問、指導助言教官制度の活用、クラブやサークル活動等の上級生、高校の同窓生等あらゆる機会を得て新1年生へのアドバイスを実施することにより、早期に大学の環境に適合させ愁訴数の減少に結びつけることが肝要と思われる。又、韓国の大学生に多くの愁訴数が認められたが、我が国の学生に比して韓国では入学時から多くの悩みを抱えている学生が多勢であ

と思われる。今回比較対象となった京畿工業専門大学は国立の二年制大学である。韓国では我が国以上に大学への進学熱が高く、調査当時の大学選抜方式は全国統一（国立、私立を問わず）で、自ら希望する大学を第1希望より順に記入し、大学選抜試験の成績上位者より希望する大学に入学が許可される仕組みになっている。多くの大学進学希望者は四年制を願望しながらも成績上位者から振り分けられていくため、二年制では希望順位も低いため、学生にとっては必ずしも希望に適った者ばかりが入学しているとは限らない。従ってこのような不満が潜在していると考えられるとともに、韓国では近年卒業定員制が導入され定員の130%の学生を入学させ、卒業時まで毎年規定により超過の30%を脱落させるというもので、日本の如く落第、留年は認められず、少しでも成績が振るわなくて毎年下位グループに入っていれば自動的に脱落し除籍処分となる。この制度を一部日本のマスコミは<sup>7)</sup>大学生の脱落恐怖症候群というように報道した。以上のことより韓国学生は大学に入学しても2年次への進級の悩み等が入学間もない頃から存在し、加えて、昨年の退学者の現実をみて益々不安を募らせ、このような多くの愁訴数になったものと推察される。しかし、これらの不安や悩み等も学年進行と共に減少し、2年生になると現実の社会生活に適合すべく、他大学の3年に編入するもの、就職して夜間大学の3年に編入する者など、自らの方針決定が心の動揺を押える結果となり愁訴数の上でも減少傾向が認められたとの報告<sup>8)</sup>がある。山崎<sup>9)</sup>は聖徳短大Ⅱ部（夜間）学生の愁訴数の高いのは、昼間労働、夜間勉強という今までの高校時代に比して多くの拘束時間より生ずるストレスがこのように多くの愁訴数に結びついたものと述べ、同大Ⅲ部学生の愁訴数がこれまでの調査結果の中で最高となったのは、大学での勉強と勤労が早番、遅番の各1週毎の繰返し睡眠不足に連なり、Ⅱ部と同様今までのような昼間のみ勉強ではなく、更に労働が加わるという状態で、Ⅱ部及びⅢ部の学生は全員が親元を離れた寮生活のため、精神的適応が十分できないことが更に身体的適応にも影響し、このような愁訴数の増大になったと述べている。これに比べると本学学生の愁訴数の少ない理由としては或る程度の適応ができているものと考えられる。

本学と他大学との項目別愁訴数及び身体的、精神的愁訴数を比較してみると、家政科では身体的愁訴数18.2、精神的愁訴数11.9となった。愁訴内容では他大学に比して身体的項目のA（目、耳）、G（神経系）、I（疲労度）、J（疾患に関する関心）、精神的項目のN（憂うつ）、Q（怒り）、R（緊張）等がやや低い値を示した他は、愁訴数が著しく高い項目も認められなかった。このことより家政科はほぼ一般的、標準的な健康な大学生の集団と推察できる。英語科においては身体的愁訴数18.9、精神的愁訴数11.6となり家政科とほぼ同じ値となった。愁訴内容では身体的項目のA（目、耳）、L（生活様式）がやや高い値を示したものの、反面愁訴数の低いものでは身体的項目のD（消化器系）、E（筋肉骨格系）、精神的項目のM（不適）、N（憂うつ）、Q（不安）、R（緊張）などであった。このことより英語科は概して健康で精神的ゆとりのある集団と推察される。A（目、耳）項目が高いことは他大学に比し多くの眼鏡着用者が存在するものと思われる。又、L（生活様式）項目は通学時間の増大が入学間もない学生にとってはストレスとなり、生活様式の変化に伴う適応が遅れているものと考えられる。

## 2. 自宅通学生と自宅外通学生の愁訴数の比較

本学における自宅通学生と自宅外通学生（下宿等）の1人当たりの愁訴数は表3、表4の通りである。本調査被験者289名中自宅通学生は245名（84.8%）であった。自宅外通学生の愁訴数には科、コース別によって差が認められるが、例数が少なく少数例による個人差も推察されるので、本研究では大学一括として考察することとした。

表3 自宅通学生の愁訴数

科・コース		項目 N	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	総計
家政科	食物コース	78	17	18	11	38	03	12	15	18	15	02	08	10	34	06	16	16	16	18	273
			(16.7)										(10.6)								
家政科	生活文化コース	88	19	26	13	35	05	13	14	16	21	05	09	11	38	09	19	18	21	18	310
			(18.7)										(12.3)								
英語科		79	21	21	14	34	03	17	18	17	18	05	09	11	35	11	15	17	19	19	304
(18.8)										(11.6)											
平均		245	19	22	12	36	04	14	16	17	18	04	09	11	36	08	17	17	19	18	297
(18.2)										(11.5)											

表4 自宅外通学生の愁訴数

科・コース		項目 N	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	総計
家政科	食物コース	20	23	28	16	37	05	20	23	19	25	03	15	11	48	15	23	19	23	22	371
			(22.5)										(15.0)								
家政科	生活文化コース	11	25	25	15	41	05	07	15	16	24	01	12	10	41	08	24	23	12	26	330
			(19.6)										(13.4)								
英語科		13	25	21	15	28	03	14	22	24	22	06	09	10	40	15	18	22	19	17	321
(19.0)										(13.1)											
平均		44	24	25	15	35	05	15	20	20	24	03	13	10	44	13	21	21	19	21	348
(20.9)										(13.9)											

1人当りの愁訴数統計をみると、自宅通学生29.7、自宅外通学生34.8となり、自宅外通学生に愁訴数の多いことが判った。又、身体的愁訴数では自宅通学生18.2、自宅外通学生20.9、精神的愁訴数でも自宅通学生11.5に対し、自宅外通学生では13.9となり、身体的、精神的共に多くの差が認められた。このことは親元を離れ父母中心の家庭より、自分自らひとりで生活する不馴れが入学間もない学生にとっては不安や緊張の連続であり、急変した生活環境に滑らかに適応できないことが、このような愁訴数の増大をもたらしたものと思われ筒井<sup>10)</sup> 篠田<sup>8)</sup> 山崎<sup>9)</sup>等とはほぼ同様の結果となった。

項目別愁訴数をみると自宅通学生及び自宅外通学生の両者の差が0.5以上認められたものに、身体的項目のA（目、耳）、I（疲労度）、精神的項目のM（不適）、N（憂うつ）の4項目でM（不適）は0.8と最高であった。このことは前述の如く親元を離れた生活への不安や新しい環境に適応できない戸惑いなどが重なり、連続した緊張を強いられているものと思われる。その結果疲労を訴える者も多く、精神的には不快な状態にあると考えられる。このようなことから、できれば下宿生の新入学時のカウンセリングが必要ではないかと思われる。

### 3. 神経症傾向

表5は各大学別の神経症分類を%で示したものである。神経症分類は深町等<sup>3),4)</sup>の判定基準に従って4つに区分した。

第I群 5%の有意水準で心理的正常領域

第II群 どちらかといえば心理的正常領域



第Ⅲ群 どちらかといえば神経症といえる領域

第Ⅳ群 5%の有意水準で神経症といえる領域

表2, 3, 4と表5には多くの類似点が認められた。即ち、第Ⅲ群、第Ⅳ群の合計が家政科では33.5%, 英語科では31.5%となり他大学(例数の少ない名工大は除く)に比し、良い結果となった。このことは自宅通学生が多い結果なのかあるいはその他の多くの要因も考えられるが、その要因の分析は今後の研究としたい。

#### 4. 自宅及び自宅外通学生の神経症分類の比較

表6, 表7は本学学生の自宅及び自宅外通学生の神経症分類を比較したものである。これらの表によると、第Ⅰ群、第Ⅳ群に多くの差が認められ、自宅外通学生は自宅通学生に比して神経症傾向が強いことが判った。このような結果は林<sup>11)</sup>筒井<sup>10)</sup>篠田<sup>8)</sup>等の調査でも同様に、自宅外通学生に多くの神経症傾向が見い出されたとの報告と一致している。このことは親元を離れて遠方の大学に進学し、下宿等の生活環境の変化に直面する一方、思想や信条等急速な成長変化を遂げ自己を確立していく中で、生活、環境上の異和感、孤独感などの現実の差が身体的にも精神的にも大きいことに気付き、受けるショックも強くこのような差になったものと思われる。その影響が本学の場合でも多くの自宅外通学生に認められた。学生は環境の異った名古屋市及びその周辺での下宿、又は寄留生活のため、今回の調査段階では入学後日も浅いことなどから、これらが精神的ストレスの増加に結びついたものと思われる。しかし、今回の自宅外通学生には科、コース別にも差が認められるが、例数も少なく個人の適応性の問題も含んでいることから、更に例数を重ね細部は次回に報告したい。

#### ま と め

名古屋女子大学短期大学部の1年生289名を対象として、C.M. I. 法による健康調査を行った結果、次のような傾向が認められた。

- 1) 1人当たりの愁訴数は家政科30.1, 英語科30.5, 平均では30.5となった。
- 2) 1人当たりの身体的愁訴数は18.6となり、科別では家政科18.2, 英語科18.9となった。又、精神的愁訴数は11.9となり、科別では家政科が11.9, 英語科が11.6となった。
- 3) 項目別の愁訴数では他大学に比し、英語科が身体的項目A(目, 耳)に高い値を示した。

表5 大学別神経症傾向(%)

大学	科・コース		分類 N	I	II	III	IV
	名古屋女子大学短期大学部	家政科	食 物 科	98	28.6	43.9	22.4
生活文化コース			99	26.3	34.3	35.4	4.0
合 計			197	27.4	39.1	28.9	4.6
英 語 科		92	26.1	42.4	21.7	9.8	
総 計		289	27.0	40.1	26.7	6.2	
聖徳学園女子短大	I 部	249	14.5	34.1	43.4	8.0	
	II 部	112	8.9	30.4	44.6	16.1	
	III 部	229	5.7	31.4	43.7	19.2	
椋山女学園大学		350	18.3	40.3	31.4	10.0	
名古屋工業大学		9	66.7	33.3	—	—	
韓 国 大 学 生		83	6.0	32.5	43.4	18.1	

表6 自宅通学生の神経症傾向(%)

科・コース	分類 N		I	II	III	IV
	家政科	食 物 科	78	32.0	44.9	20.5
生活文化コース		88	27.3	32.9	36.4	3.4
合 計		166	29.5	38.6	28.9	3.0
英 語 科		79	26.6	43.0	21.5	8.9
総 計		245	28.6	40.0	26.5	4.9

表7 自宅外通学生の神経症傾向(%)

科・コース	分類 N		I	II	III	IV
	家政科	食 物 科	20	15.0	40.0	30.0
生活文化コース		11	18.2	45.4	27.3	9.1
合 計		31	16.1	42.0	29.0	12.9
英 語 科		13	23.1	38.4	23.1	15.4
総 計		44	18.2	40.9	27.3	13.6

家政科においては差が認められなかった。

- 4) 自宅通学生、自宅外通学生の愁訴数の比較では自宅外通学生に多くの愁訴が認められた。
- 5) 自宅通学生と自宅外通学生の項目別愁訴数では0.5以上の差が認められたものにA(目、耳)、I(疲労度)、M(不適)、N(憂うつ)の4項目で、中でもM(不適)は0.8と最高であった。
- 6) 神経症傾向の第Ⅲ群、第Ⅳ群の合計は家政科が33.5%、英語科が31.5%。両者の平均では32.9%となった。
- 7) 自宅通学生及び自宅外通学生の神経症傾向の比較では家政科、英語科共に自宅外通学生に神経症傾向が強く表われた。

最後に、本研究を進めるにあたって、ご指導ご助言を賜りました岐阜工業高等専門学校篠田昭八郎教授に対し深謝いたします。

#### 参 考 文 献

- 1) 深町健：福岡医学雑誌，50，9，2988（1959）
- 2) Brodman K. et. al：J. Clin. Psychol. 8，119，（1952）
- 3) 勝沼晴雄：健康管理のための調査統計，117，医歯薬出版（1963）
- 4) 金久卓也，深町健：コーネルメディカル・インデックス，三京房（1980）
- 5) 篠田昭八郎：岐阜工業高等専門学校紀要，7，64，（1972）
- 6) 金榮烈：第28回日本学校保健学会（1981）
- 7) 毎日新聞：昭和58年2月23日，夕刊
- 8) 篠田昭八郎他：岐阜工業高等専門学校紀要，16，37，（1981）
- 9) 山崎旭男：聖徳学園女子短期大学紀要，9，33，（1983）
- 10) 筒井健市：名古屋工業大学報，21，481，（1969）
- 11) 林千代子：椋山女学園大学（未発表）